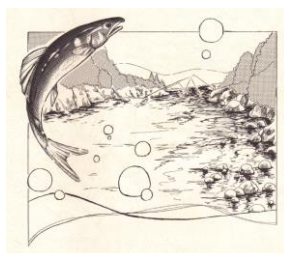


第 27 回 清流川辺川現地調査

テーマ:球磨川豪雨 3 周年、事実を隠した国・県の治水計画は許さない



被災者の証言より 7.4 水害は、亡くなられた方の多くが、支流の増水によるものであることが明らかになっています。しかし国・県はそのような被災者の声に耳を傾けようともせず、流域住民を欺くような理由をつけてダム建設を強行しようとしています。国・県の在り様に憂いながら政治の転換を願う多くの方々と、手をつなぐような集会にしたいと思います。みなさんぜひご参加ください。

清流川辺川現地調査 実行委員長 茂吉隆典 中島康

<内容>

- ①「利水裁判とダムが一度止まるまでの考察」森徳和さん(利水訴訟弁護団)
- ②「7・4 水害は支流水害」田中信孝さん(元和歌山大学防災研究所准教授)
- ③「第 4 橋梁のダム化」中島康さん(川辺川現地調査実行委員会)
- ④「瀬戸石ダムが上下流での被害を大きくした」
土森武友さん、緒方雅子さん、光永了円さん
- ⑤「より広い連携を」中島熙八郎さん(熊本県立大学名誉教授)

<現地調査：車に乗り合わせ被災現場を訪れます>

日 時：2023 年 8 月 26 日（土） 午後 1 時～6 時

集合場所：外山胃腸病院駐車場(人吉市南泉田町 24-2)裏面の地図参照

見学先：①球磨川・川辺川合流点、②人吉市大柿町 ③球磨村神瀬

参加費：2000 円（資料代を含む）

申込み：人数把握のため裏面の申し込みに記入し、郵送または FAX を

<シンポジウム：事前申し込みの必要はありません>

日 時：2023 年 8 月 27 日（日） 午後 2 時～4 時

場 所：相良村総合体育館研修室

資料代：1000 円

*オンライン (ZOOM) 参加も可能です。

URL:<https://bit.ly/3u80ZT1>(下 QR コード)、ミーティング ID: 968 856 5952、パスコード: CMxm1X



※ 川辺川利水訴訟勝訴 20 周年記念碑の除幕式があります。

集合日時：2023 年 8 月 27 日(日)午前 9 時 30 分

集合場所：相良村総合体育館前（会場までバスで送迎）

主催 川辺川現地調査実行委員会

【問い合わせ】本村令斗 ☎090-2859-5520

〒868-0021 熊本県人吉市鬼木町 1525-9

第27回川辺川現地調査

参加申込用紙(26日の現地調査に参加される方のみ提出を)

必要事項を記入の上、郵送かFAXで下記へ送ってください

〒868-0021 熊本県人吉市鬼木町 1525-9 現地調査事務局 本村令斗

FAX0966-22-2276

【問い合わせ】☎090-2859-5520

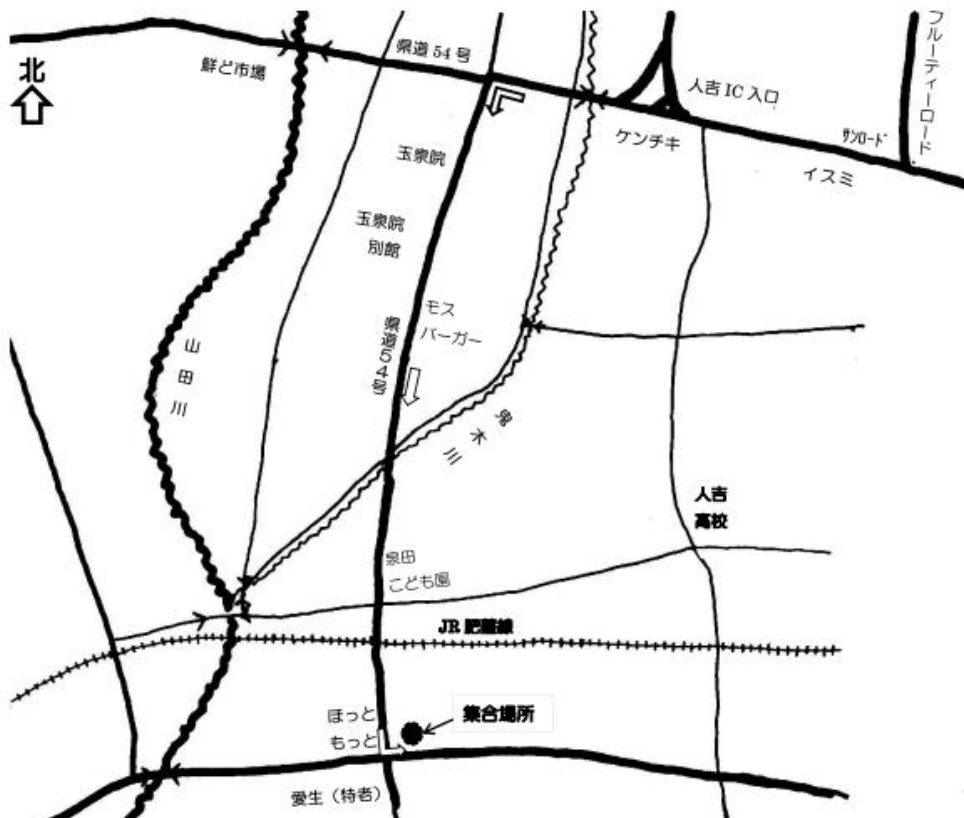
申し込みをされる代表の方

氏名		住所	
電話番号		所属団体	

いっしょに参加される方

	氏名		氏名
1		4	
2		5	
3		6	

集合場所への地図



第 27 回清流川辺川現地調査式次第

NO	内容	発言者	時間 (分)
1	開会挨拶	中島康(川辺川現地調査実行委員会)	5
2	利水裁判とダムが一度止まるまでの考察	森徳和さん(川辺川利水訴訟弁護団)	15
3	7・4 水害は支流水害。山田川の河道を広げないのはそれを認めないため。	田中信孝さん(元和歌山大学防災研究所准教授)	15
4	第 4 橋梁のダム化	中島康さん	10
5	瀬戸石ダムが上下流での被害を大きくした。電源開発は不誠実で、国交省は動こうともしない。	土森武友、緒方雅子さん、光永了円さん	20
6	会場発言		15
7	ダムを止めるためにも国政を変えよう。	仁比聡平さん(参議院議員)ビデオメッセージ	5
8	連帯の挨拶	後藤富和さん(理不尽な公共事業 No!の会)	5
9	より広い連携を	中島熙八郎(熊本県立大学名誉教授)	10
10	集会宣言文提案	(ダムによらない復興・復旧を求める人吉球磨の会)	5
11	閉会挨拶	茂吉隆典(川辺川現地調査実行委員会)	5

※今日の集会の様子はオンラインで中継し、後日インターネットで公開します。ご

発言・ご質問される方はあらかじめご了承ください。

集会宣言文

球磨川豪雨災害の発生から3年が経過しました。国土交通省と熊本県は昨年、流域住民の声を無視し、流水型ダムを中心に据えた球磨川水系河川整備計画を策定しました。そして現在、国交省は環境影響評価法に準じるという自主的な環境影響評価を行っています。

豪雨災害時の川辺川流域での降雨量は大したことはなく、仮にダムがあったとしても水をためて下流の水位を下げるができるような量ではありませんでした。また、人吉市ではピーク時の流量が毎秒1万立方メートルを超えたと言う住民や専門家もいますが、国交省の見解は毎秒7千立方メートル台です。これは川辺川ダムと市房ダムによって水位を下げ、球磨川の人吉地点で溢れずに流せる流量と国交省が考えている毎秒4千立方メートルにするためのものです。ダムありきの計算なのです。

流域の犠牲者50名の殆どの方が、支流災害で亡くなられており、流水型の川辺川ダムが仮に効果を発揮したとしても、救うことは出来なかったことが市民団体などの調査で明らかになっています。支流災害を防ぐ抜本的な対策には手を付けずに、ダム建設のみ進める国・県のやり方は犠牲者を冒流するものであり、怒りを禁じ得ません。

球磨川中流域では瀬戸石ダムの存在により、水位が最大7メートル近く上昇し、被害を拡大させたことが明らかになっています。しかしダムを管理運営する電源開発はそのことを否定し、住民の声を全く聞こうともしません。国交省も河川管理者としての責任を放棄し、ダムの操作手順には問題はなかったとして、瀬戸石ダムが問題を引き起こしたことを認めようとはしません。不誠実極まりない態度です。

このような状況を変えていくには、まずは私たちの声を大きくする必要があります。その上で、流域だけでなく、熊本県下一体となってダムはいらないという声を上げていき、その声を背景にし、このようなダムを押し付けようとする政治のあり方を変えていく必要があります。そのために、私たちは、志を同じくする全国の仲間や県議会議員を始めとする地方議員、国会議員と連携・連帯し、政治の場でダムを根絶やしにします。私たちは、このことを実現するまで闘い続けることを宣言します。

2023年8月27日 第27回 清流川辺川現地調査シンポジウム 参加者一同